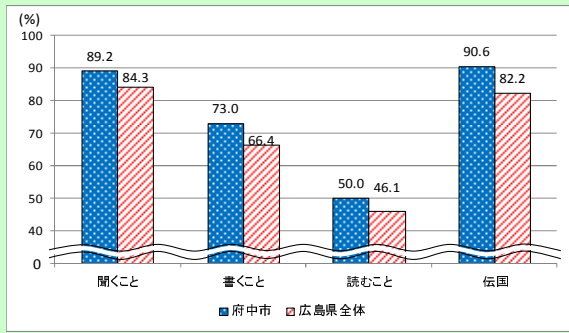


府中市の取組

学力調査の結果における特徴～小学校国語を中心に～

H26「基礎・基本」定着状況調査(小学校国語)



伝国…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○小学校国語の教科調査の結果について

- 「基礎・基本」定着状況調査 教科調査より
- ・小学校国語の平均通過率 78.3% (県平均 +6.5P)。
- ・領域等別の通過率においては、4領域すべてにおいて県平均を上回り、「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては5P以上、上回っている。

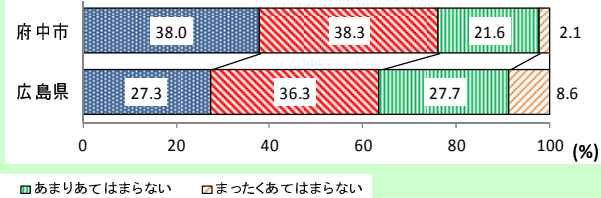
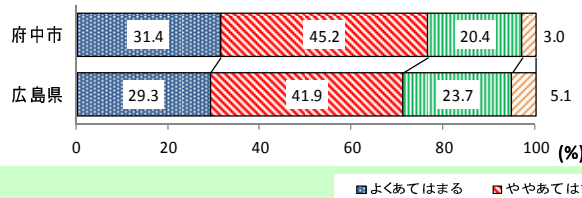
○小学校国語の児童質問紙調査の結果について

- 「基礎・基本」定着状況調査 児童質問紙調査「教科学習への意識 国語」の肯定的回答の割合
- ・「学んだことへの振り返り」76.3% (県平均 +12.7P)
- ・「辞書で調べる」75.7% (県平均 +7.2P)
- ・「伝えたいことの組み立てを考えて文章を書いている」76.6% (県平均 +5.4P)

H26「基礎・基本」定着状況調査 児童質問紙調査

国語の授業では、伝えたいことの中心をはっきりさせ、組み立てを考えて文章を書いています。

国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。



教育委員会の取組

ポイント1

授業設計の要に、レディネス把握・ポストテストを置く

児童一人一人の既有知識(既習事項含む)を把握し、授業展開ですべての児童を生かす。

レディネス把握

- 新たに獲得させる知識を、本時で「つきたい力」として明確にする。
- 「つきたい力」の背景となる知識状況を、既有知識として測定する。
- 個々の既有知識と「つきたい力」との開き具合から予測を立て、工夫を構想する。
- 授業後の児童に表現してほしい「振り返り」の言葉を見立てる。

授業展開

- 学ぶ必然性をもたせる「導入」を構成する。
- 個々の既有知識を振り所とする思考状況を、「書く活動」を通して授業者が見取る。
- 全員をゴールに到達させるための学び合いを、授業の中で再構成する。(ペア・グルーブトーク、意図的指名)
- 新たな知識の獲得を「まとめ」で確認する。

ポストテスト

- 新たに獲得した知識によって解決できる事後テストに挑戦させ、習得した知識の活性化を図り、生活の中で活用させる。

ポイント2

教材の中だけで完結しない教材解釈に挑む

教材文に対して単元観を構築する際、本単元の指導事項はどこからつながり(下学年の既習事項)、どこにつながっていくのか(上級学年で身に付けさせたい力)について、広く見渡した教材解釈を校内研修の議論にする。

ポイント3

家庭・地域とともに取り組む「ことばの教育」

家庭や地域に対して、文化・芸能及び読書を通した子どもとのコミュニケーションを呼びかけるとともに、家庭や地域とのつながりをテーマとした川柳、エピソード作文を作ることを推進する。保護者対象の「ことばの教育」についての研修も実施する。

学校の取組

授業実践

府中市立府中明郷小学校

第2学年「スイミー」(光村図書)

「本時の学習をすすめるためには、これだけの知識がないと成り立たない」というレベルの既有知識に対して、児童がどのような状況にあるかを把握した上で、全員をゴールに到達させるための工夫を行っている。

つきたい力

- ・ 根拠となる言葉や文を明らかにし関係付けながらスイミーの心情の変化を想像しながら読み、感想を書くことができる。

それを学ぶために活用する
既有知識・背景知識

- ・ 自力で音読することができる。
- ・ 登場人物のセリフを想像して書くことができる。
- ・ 本を読んで好きなおもしろいと思ったところを書きぬき、そのように思ったわけを書くことができる。

〔本時を中心とした既有知識・背景知識の獲得状況：例〕

学び合いのため の見取り	レベル	獲得状況	人数
	レベル3	登場人物の気持ちを想像しながら読むことができる。根拠を明らかにしながら感想を書くことができる。	10人
	レベル2	登場人物の気持ちを想像しながら読むことができる。感想は書くことができるが根拠があいまいである。	21人
	レベル1	音読がたどたどしく時間がかかる。登場人物の気持ちを想像しながら読むことが難しい。	4人



学びを振り返る「スイミー日記」

身に付けさせたいのは、「スイミー」の次に出会う物語文や本を、自力で解釈できる「基礎・基本」

授業実践

府中市立国府小学校

「言語活動充実」のための新聞活用の授業

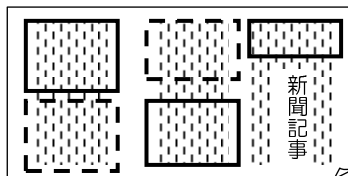
児童の国語の力を高めるために自作ワーク「新聞を活用した実用国語カトレーニング」を作成し、校内で定期的に取り組んでいる。これにより次のような力の高まりがみられた。

- ・ 生活の範囲を超えた言葉に触れることで、語彙が増え、ものの見方が広がった。
- ・ 密度の濃い情報を読む事を通して、情報を整理・分析する力が身に付いた。
- ・ 自分なりの意見や考えをまとめる力がつき、書く力や話す力も伸びた。

例 「記事を読み解く」【中心となる語や文章の構成を効果的にとらえさせる】

グルーピング

記事を読み、2つのキーワードをそれぞれ説明する部分に色をぬり、どのような文章構成で書かれているかをとらえる。



※ は A というキーワードに関して書かれた記事の部分に色をぬったもの
 は B というキーワードに関して書かれた記事の部分に色をぬったもの

【児童の分析例】

文章を色分けすることで、文章構成がよく分かる。
A の方の分量が多いので、筆者は A の方が B よりもより伝えたいことが分かる。

言い換え

- ・ キーワードとなる言葉が、記事の中で別のどのような言葉として言い換えられているかを読む。

具体と抽象

- ・ 言い換えられた言葉を抽象・具体の観点から整理して表にまとめる。

表現

- ・ 自分ならキーワードをどのような言葉で言い換えるかを考える。